

# 本校の教育活動・研究・学校改革

## どうして3つの柱なのか？

本校では、「3つの柱」を、これから生きていく子どもたちにとって大切な力、教育活動を進めていく上で必要不可欠なものと捉えている。

学習や活動を展開していく中で、子どもたちが意欲的に取り組み、友達との関わりによって高まり、次の活動や生活場面において実行していく…3つの柱は、スパイラルに絡み合うものと考えている。

## どうして各領域を貫くのか？

「総合だけでは子どもは育たない。」  
「教科だけでも育たない。」

3つの柱で、全ての領域を貫いてこそ、子どもたちに確かな生きる力を育んでいくことができるものと信じて実践にあたっている。学校生活を丸抱えにして一貫した姿勢で向かうことが大切であると考えている。

## 教育活動

子どもを育てる日常の教育活動を重視しよう

### 教師の願い

友達と関わりながら高め合い、自らの判断で実行できる子どもになってほしい。

### 子どもの実態

- ・与えられたことには真面目に取り組む。
- ・困難にも負けずにやり遂げようとする実行力に乏しい。
- ・友達との関係が希薄で、複数でないと行動できない子どもが多い。

教育活動の3つの柱で教育活動全体（教科・総合・特別活動）を貫く。

- 「主体性」 → 子どもの主体性を育てる
  - 「協働性（関わり）」 → 子ども同士の関わる力を育てる
  - 「創造性」 → 実行する力を育てる
- ※別紙「各領域で求める力」（全体像）を参照。

子どものため、教師の力量を高めるため

実践重視

## 「各領域で求める力」（全体像）について

全体像は、子どもたちの実態を見ながら育ちや学びを考えたり、学習及び活動を仕組んだりする際の、本校教育の基本となるものである。

学年経営や学級経営を考える時にも、教師の願い・子どもたちの実態・全体像を十分に考慮して作るようにしている。

しかし、全体像は完成されたものではなく、常に教師一人ひとりが見直し、加除修正していくものとしている。

## 研究スタイル

キーワードは、教師の「自立」（研究授業のための授業をしない）

### 学級を開く（普段の授業を公開する）

子どもの力は、授業研究だけでは育たない。毎日が本番である。

### 教師一人一人の個性重視

教師のもつ思いや願いを大切に、授業スタイルを揃えたり、指導案の形式を決めたりしない。しかし、目指す方向性は同じである。

### 教師自身の主体性（専任アドバイザー制）

助言いただきたい先生を学年で探す。主体的に研究授業を計画し、子どもの学びや育ち、教師の支援の在り方について学びとっていく。事後研究会には、全員が参加し、学びを共有できるようにする。

### 学級経営案の見直し（研究の3つの柱に沿った手だてを盛り込む）

## 学校改革

子どもの育ちに関わる部分を増やしていこう

### 増やしていくこと

- ・授業研究…学級を開き、具体的な指導の在り方を探る。
- ・ロング朝の会、こまくさタイム、授業時間の確保…子どもに直接関わる。
- ・生活を語る会…子どもについて語り合うことで、子どもの育ちを考える。
- ・学級経営研究会…子どもの育ちと教師の意識について問い直す。

### 減らしていくこと

- ・職員会議（年度当初を除き、年5回）…話し合うべきことの明確化
- ・職員朝会廃止…連絡黒板の活用。ロング朝の会（週3回）・こまくさタイム
- ・校務分掌…一役一人制の導入により、教師の思いや個性重視を図る。（教師間の会議を減らす）
- ・事前研究会…全体での会はもたない。（ただし、必要であれば、個人で切り拓く。）

子どものための学校を実現していくために